

平成31年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人八尾市文化振興事業団	
施 設 名	八尾市文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	7,773	(千円)
公演事業	4,611	(千円)
人材養成事業	673	(千円)
普及啓発事業	2,489	(千円)

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	実演芸術の魅力深化事業 ①～③	令和元6月2日他	講師：西川信廣、西岡野人、今井朋彦、くるみざわしん、高橋正徳、人形劇団クラルテ劇団員	目標値	130
		八尾市文化会館 会議室1他		実績値	121
2	子どもの素敵な劇場体験 事業 プリズムサマーワ ークショップ1①②	令和元年8月22日他	講師：会館舞台専門員	目標値	50
		八尾市文化会館 大ホール 他		実績値	56
3	子どもの素敵な劇場体験 事業 プリズムサマーワ ークショップ2①②	令和元年7月30日他	講師：山中雅志、安福光雄、原陸、 (文学座) 高橋ひろし・永川友里	目標値	45
		八尾市文化会館 展示室 他		実績値	94
4	地域の魅力発信事業 1 「吹奏楽のまち 八尾」 魅力発信事業	令和年7月14日他	出演：八尾市内学校・一般吹奏楽団 体	目標値	2800
		八尾市文化会館 大ホール		実績値	2714
5	地域の魅力発信事業 2 河内音頭やおフェスタ	令和元年8月18日	出演：八尾本場河内音頭連盟所属音 頭取り、八尾のこども音頭大使、子 ども河内音頭講座参加者	目標値	1000
		八尾市文化会館 大ホール		実績値	1095
6	芸術文化のリーチ事業 1 芸術文化の課外授業	令和元年10月31日他	講師：大阪フィル楽団員、文学座劇 団員	目標値	350
		八尾市立曙川南中学校 他		実績値	570
7	芸術文化のリーチ事業 2 子育て支援・病院（福祉） 支援お届け事業	令和元年8月27日他	出演：大阪フィル楽団員、八尾市立 成法中学校吹奏楽部、八尾人形劇連 絡会	目標値	240
		ルフレ八尾 (母子ホーム) 他		実績値	277
8	芸術文化のリーチ事業 3 フレンドリーコンサート	令和元年8月28日	出演：相愛大学大学院音楽研究科学 生	目標値	100
		八尾市文化会館 レセプションホール		実績値	107
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

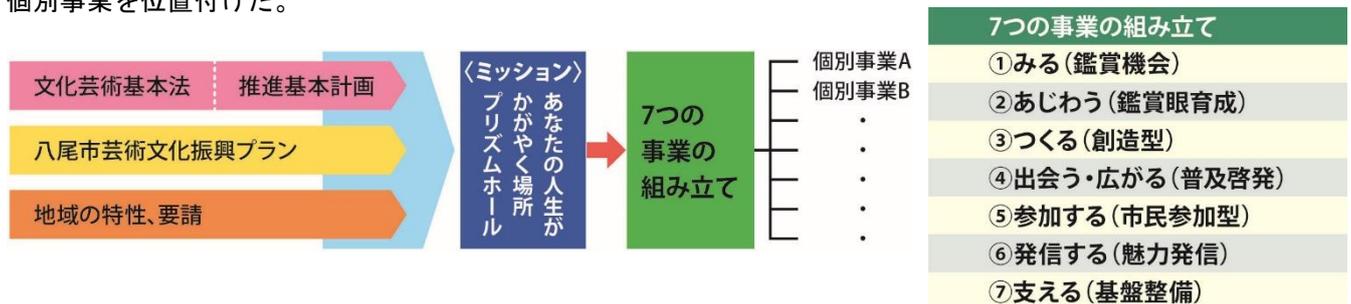
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

【1. 総括】新型コロナウイルスの影響による一部実施回数の減以外は、下記の通り達成した。

ミッションは「あなたの人生がかがやく場所プリズムホール」であり、2、3に示す通り、このミッションに基づいて事業を組み立て、当初予定通りに実施することができた。

【2. 組み立ての妥当性に関するエビデンス】

当館ではミッションの「かがやく」が示すものとして『「芸術文化の力・価値」を信じ、接点をつくり、普及する』こととした。文化芸術推進基本計画に明記されている本質的、社会的、経済的価値を、八尾市芸術文化振興プランに明記されている「芸術文化の力」として発揮することを意図し、それらを7つの事業の組み立てとして個別事業を位置付けた。



【3. 予定通りの事業実施に関するエビデンス】

個別事業の企画内容とミッションとの整合性については、ミッションをブレイクダウンして設定した当初の目的～戦略の流れを見失わないように、それらを書き込む企画書様式・項目を工夫した。企画スタートから実施日まで、2回/月の企画制作会議で進捗を確認、ズレが起こった場合は都度の修正を行った。

令和2年2月以降は新型コロナウイルスの影響で、人材養成事業の2事業について、講座と会議の実施回数を減らすこととなった。これら以外はすべて予定通りの推進と、予定した目標レベルを概ね達成した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

【1. 総括】達成した。下記の通り継続的に認められた。

【2. 文化的意義】

文化的意義として、地域に唯一の拠点施設として、市民に多様で多彩な文化・芸術との出会いの提供や活動の場を、ジャンル等偏ることなく総合的かつ専門的に提供した。その方法は、本格的な公演事業を核に多彩な人材養成事業、普及啓発事業をセットして実施した。アンケートでは、全ての事業で、「芸術文化にかかわることで、心が豊かになった。元気になった」の回答率が目標数の6%近くを上回り、芸術文化に親しんで心が豊かになった人も増加させており、達成した。

【3. 社会的意義】

社会的意義として、全ての方が「芸術文化にふれる機会を持ち、心豊かに人生が輝く」よう、地域であらゆる対象者に芸術文化にふれる機会を提供した。教育機関・福祉施設・医療機関と連携し、年間を通して19回実施した。内容は、市内公立小・中学校で芸術文化に触れる経験の少ない青少年層を対象とした「芸術文化の課外授業」、「普及啓発事業 子育て支援・病院（福祉）支援お届け事業」として、ドメスティック・バイオレンス等の要因による母子家庭の支援を対象とした母子寮ルフレ八尾での「母子ホームで人形劇」、八尾市立病院で病气加療中の方に音楽を届ける「病院コンサート」をなど実施した。また、障がい者、妊婦・乳幼児など誰もが鑑賞しやすい「フレンドリーコンサート」を継続実施し、アンケートでは、「心が豊かになった。元気になった」の目標数50%のところ56%、対象の目標数を300人のところ347人といずれも昨年度より目標数も超えており、達成した。

【4. 経済的意義】

経済的意義として、「プリズム運営ネットワーク」により交流を深めた観光協会を始め、観光、産業などの地域の団体と連携して、市内の「まちで魅了する舞台事業」（公演事業4、5）を立ち上げた。歴史的施設等での鑑賞と八尾市内飲食店の協力で飲食をコラボして地域の魅力を発信した。また「河内音頭やおフェスタ」では、地域伝統文化「河内音頭」を楽しみながら他会場で市内の食品製造業等12店舗と連携し物産展を実施した。その結果、市外からの来場者は全体の36.5%、イベント来場者の4割以上が公演前後の飲食・買い物をし、総額707,690円という経済波及効果を生んだ。芸術文化事業を核に、観光や近隣商店街等との連携を果たすことができおり、達成した。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【1. 総括】中程度達成した。

公演、人材養成、普及啓発の各事業の全指標 20のうち 11 件が達成、9 件が未達成であった。

昨年度と比較すると達成割合が 1.2%上昇した。

未達成 9 件のうち 5 つについては、ほぼ達成に近い数字であった。うち 2 つについては、指標不備としているが、新規で実施した事業で、比較数値がなかったために、公演事業の平均数値とかなりかけ離れた目標値としてしまったため、未達成となってしまった。

中には目標値も高すぎた（前年度結果から 100%維持という目標の）ものがあった。

今後は目標値の妥当性、選択時の傾向も考慮し、より適切な指標・目標設定をしたい。

指標の達成状況

		H31年度		H30年度	
		数	割合	数	割合
指標総数		20	—	13	—
達成		11	55.0%	7	53.8%
未達成	ほぼ達成	5	25.0%	—	—
	指標不備	2	10.0%	4	30.8%
	未達成	2	10.0%	2	15.4%

【2. 公演事業】中程度達成した。

地域拠点契約事業の文学座公演、大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会では、ワークショップやトークショーなど青少年、一般市民向けの普及啓発事業を併設することにより、鑑賞とともに芸術家に親しむ機会を創出した。大フィルの本公演は、オーケストラで聴く映画音楽のプログラムとして、昭和から平成まで親・子・孫世代が一緒に楽しめる内容とした。また、助成を受けられたことにより、公演前に指揮者尾高忠明氏のトークショーを追加で実施することができ、オーケストラを身近に感じられる仕掛けづくりができ、結果として、鑑賞習慣のあまりない層の鑑賞者率が昨年度に比べ 10%上昇し、「より鑑賞や体験をしたいと思った」人が 15%も増加した。

新規事業として立ち上げた「まちで魅了する舞台」シリーズでは、食や観光スポットなど芸術文化とは別ジャンルの地元の魅力とコラボレーションすることで、これまで芸術文化にあまり関心のなかった層に対してもアプローチすることができ、寺社での朗読、古民家での古楽器の演奏や落語など、オリジナリティの高い事業を実施することができた。ホールでワインとともに楽しんでいただいたピアノ・リサイタルでは、93%と非常に高い満足度を得ることができた。

全 5 指標のうち、2 件達成できた。未達の 3 件のうち 1 件はほぼ達成に近い数字、2 件は数値の設定が不十分であるため、「中程度」とした。

【3. 人材養成事業】概ね達成した。

人材養成事業では、アートマネジメントに携わる人や市民ボランティア、地域の子どもや青少年たちに向けて講座等を多数開催し、特に地元の魅力を発信する「河内音頭」や「吹奏楽」においては、次世代の実演家を育成に取り組んだ。

市民ボランティアについては、有料公演での表方参加を促進し、これまで習得してきた知識や経験を実践する場を提供することができた。それにより、スキルアップとともに責任感や意識の向上がなされ、さらに様々な経験をしたという希望により、平成 31 年度メンバー全員から継続の意思が確認できた。

インターンシップ生は、夏休みに実施した「プリズムサマーワークショップ」に運営側として実体験してもらい、また相愛大学の学生には、乳幼児やその保護者・障がい者も多数参加した「フレンドリーコンサート」に出演するだけでなく、企画構成にも関わってもらい、学校では得られない体験をする機会を提供できた。

全 7 指標のうち、5 件達成できた。未達の 2 件はほぼ達成に近い数字であるため、「概ね」とした。

【4. 普及啓発事業】概ね達成した。

普及啓発事業では、子どもの劇場体験や地域の魅力を発信する事業、様々な人へ芸術文化を届ける事業等を実施した。

特に、社会包摂を目的とした施策として、要約筆記の導入や、段差の多いホールでの公演を避け、平土間の会場で実施することにより、車いすの方や席にじっと座ってられない知的障がいの方も参加しやすいコンサート（フレンドリーコンサート）を実施した。また、ひとり親家庭（母子寮に入所する子どもとその母親を対象に人形劇を実施した。子どもや青少年、障がい者、貧困者、外国人、高齢者等、様々な方々へ芸術文化を届けることができた。

全 8 指標のうち、4 件達成した。未達の 4 件のうち 2 件はほぼ達成に近い数字であるため、「概ね」とした。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【1. 総括】達成した。

全 16 事業のうち 15 事業では事業期間・事業費ともに当初の予定通り実施できたが、1 事業に収支の面で改善の必要性が見られた。

【2. アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。】

事業期間に関しては、事業の実施前には、詳細な広報計画も含めた企画書を作成し、誰にどのようにどのタイミングで届けるのかを計画したうえで事業を着手した。事業担当者は、全員 10 年以上の企画制作のキャリアがあり、適切な計画が立てられた。

特に、公演事業については、広報計画を踏まえたチケットの販売計画である「チケット販売管理表」を事業ごとに作成し、販売数とスケジュールの管理とともに次への改善を行った。

結果として、企画立案から出演者・講師などの相手方との折衝、事務処理等も含めて遅滞することなく、ほぼすべての事業で、事業ごとのスケジュールリングも確実に実行しており、予定した設定期間で実施できたので、計画通りに進んだと言える。

【3. アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。】

事業費に関しては、すでに決定している指定管理料と想定入場者数等の算出による事業収入の範囲内で、実施可能な事業本数を決定し、予算立てしている。助成金の採択が決定し、予算の補正を行う時には、対象の事業がより魅力的により質が高くなるように、チラシのデザイン費やプロによる写真撮影（より魅力が伝わる広報物への使用）費用等を増額している。事業ごとの予算は、事業担当が算出したうえで、制作セクションの会議でも過不足がないか検討し決定しているため、計画（予算）は適切であったと言える。

一方で、個々の事業では公演事業の中の 1 事業について収益率が伸び悩んだ。

文学座の拠点契約事業のメインの事業となる本公演であるが、文学座の地方公演のスケジュールの関係で、平日の昼公演のみの開催となったことが最も大きな原因と考えられる。文学座公演は、固定ファンもついており、必要な広報もタイミングを逃すことなく実施したが、設定した目標入場者率 83.9% に対し、75.1% にとどまってしまった。事業費としては、支出をおさえるよう事業担当が努力したが、事業費に見合ったアウトプットであったとは言い難い。

改善項目ではないが、計画と比較して乖離があったものについては、

・「人材 1：演劇実演芸術家養成事業」

2 事業で申請した中の 1 事業が不採択となり、また当初想定していた委託費（交通費含む）の支払いがなくなったことにより、支出額が大幅に減額となった。

・「普及 2：子どもの素敵な劇場体験事業 プリズムサマーワークショップ 1①②」

当館のベテラン舞台スタッフが企画・実施するイベントということもあり、企画制作料が助成対象経費の約 50% を占めていたが、助成金内定額との調整の時点でその人件費を計上できなくなったため、支出額が大幅に減額となった。

・「普及 8：芸術文化のリーチ事業 3 フレンドリーコンサート」

上記同様、助成金内定額に合わせて撮影・録画費を計上できなくなったためスタッフで撮影し、支出額が減額となった。

事業費収支は、館の芸術文化事業全体としては良好であった。すべての事業において、当初の設定予算から大きく違えることなく、また収支も問題なく推進できた。

収支比率(助成対象事業)

		予算	決算
公演事業(4事業)の入場者率			
目標	結果		
82.0%	→		86.7%
公演事業		153.3%	→ 166.6%
人材養成事業		116.6%	→ 164.7%
普及啓発事業		113.4%	→ 121.4%
全体		134.8%	→ 149.9%

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

視点1

【1.総括】達成した。下記の通り継続的に認められた。

【2.劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物(キーパーソン)の存在】

当館は館長と舞台長を設置しており、館長が芸術的内容に関する責任者の役割と運営責任者を担い、舞台長は舞台技術責任者の役割を担うことで、館全体の質を担保してきた。両者連携の下、専門性の高い正規の職員が現場にあっている。その結果としてホール利用者数(全国平均:153,550人・当館:246,797人)、ホール稼働率(全国平均:58.9%・当館:85.6%／就任前大・小ホール平均稼働率:61.5%・就任後大・小ホール平均稼働率:73.6%)、施設利用料収益(就任前:84,090千円(平成20年度実績)・就任後:100,385千円(平成31年度実績))が継続的に向上しており、利用者満足度も高い。

平成31年度舞台利用者アンケート結果では、舞台の実現度、再利用の意向で100%という結果が出た。また、基幹業務を担う人材は全て正規職員であることから、人材が育ち館長・舞台長・リーダー等の幹部層は全て生え抜きの財団職員である。

グループリーダー制とプロジェクト制を敷くことで、イノベーションを生み出す組織づくりを志向し、課題解決できる人材を育成している。これらを評価され、職員が講師として外部から派遣依頼や全国の劇場・音楽等からの視察を受けることが16件以上あった(右表参照)。

講師派遣・視察について

【講師派遣】

10件

大学での業務運営に関する講義	1件
(公社)全国公立文化施設協会 コーディネーター他	3件
事業等審査に係る審査員他	5件
職業講話講師	1件

【視察】

6件

大学からの視察 (改修・事業等ヒアリングも含む)	2件
全国の劇場からの視察 (改修・事業・人事等のヒアリングも含む)	3件
大阪府内市役所からの視察 (改修等ヒアリングも含む)	1件

【3.専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在】

公演にワークショップや講演などの普及啓発的な事業をセットして、市民との接点や交流の機会を増やし、作品への理解を深めるため、「大阪フィルハーモニー交響楽団」(音楽)・「劇団文学座」(演劇)と地域拠点契約を行い継続的かつ積極的に連携した。これにより若年層の集客など鑑賞者開発にも効果が出た。

両事業を通じて、本年度は市内小・中学生のべ約2,500人以上(昨年度は約2,400人以上で、約100人アップ)が優れた舞台芸術に触れることができた。

地域拠点契約団体との取組について

(音楽)大阪フィルハーモニー交響楽団

本公演	鑑賞者の開発、育成
	芸術文化の課外授業(市内中学校) 吹奏楽クリニック(市内中学校吹奏楽部) マエストロによるトークライブ
	あらゆる立場の市民の鑑賞 機会の確保
	八尾市立病院ロビーコンサート

(演劇)劇団文学座

本公演	鑑賞者の開発、育成
	芸術文化の課外授業(市内小学校) まちで魅了する舞台「朗読の会」 出演者による朗読会&トークショー
	演劇表現の理解を深める
	演劇ワークショップ(小・中学生対象) 演劇ワークショップ(一般対象)

【4.創造活動に関わる建物設備等】

舞台保守および修繕対応を確実にし、老朽化などの不具合発生時は職員がカバーをして、満足度の高い舞台サービスを提供できた。一方で、開館から30年以上が経過し、根本的な大規模改修を令和3年度に実施することとなった。既存不適格箇所や建設以来未更新の部分には、逐次その状況を市に報告し、利用者の安全確保と芸術性の高い舞台の実現のため、様々な観点から改修を要望した。

【5.その他】

利用者の安全確保に係る訓練や研修等を半年に1回以上実施している。

今年度は通常の消防訓練に加え、「避難訓練コンサート」を実施した。これは、実際のコンサートで観客も入っての訓練で、公演等実施時のお客様誘導を体験し、有事の時に素早く必要な対応をスタッフが行えることを目的としており、実施による反省点の明確化や参加者の防災意識の向上に寄与することができた。

視点2

【1.総括】達成した。

【2.公演の企画内容、作品の芸術性の高さ、特色】

平成31年度は、地域拠点契約事業を含む4事業を実施した。

特に、新規事業の「まちで魅了する舞台」シリーズを立ち上げ、好評を博した。

具体的には、「まちの名所とコラボレーション編」として、大阪府指定文化財であり、江戸時代中期に建立された地元八尾の「名刹」顕証寺の荘厳な本堂で、文学座の朗読会を実施した。このイベントはまた、市の観光協会ともコラボレートした企画で、市内の名所のまちあるきとともに、このイベントのために用意してもらった特別懐石弁当も味わえる、芸術の「質」・「場」の魅力・「味覚」にこだわる事業とすることができた。

その他、築250年の古民家を再生させた、国登録有形文化財である茶吉庵で、ともに250年前に演奏されていたであろう古楽器の音楽会も実施した。

「まちで魅了する舞台」シリーズ全4事業すべてにおいて、オリジナリティのある満足度の高い公演を実施できた。

【3. 人材養成、普及啓発の企画内容の高さ、特色】

人材養成事業では、地域の魅力発信とイメージアップにつながる「河内音頭」と「吹奏楽」の次世代実演家養成事業等、4 事業を実施した。「子ども河内音頭講座」では定員を大きく上回る応募があり、若い世代の地域文化への興味関心が高まったと言える。

普及啓発事業では、幼児・児童生徒や障がい者、高齢者、妊婦などひろく芸術文化に関われる機会を提供する 8 事業を実施した。「芸術文化のリーチ事業1 芸術文化の課外授業」では、受け入れ可能数を大きく上回る希望があり、10 学級程度の実施想定のところ、16 学級の実施となった。これまでの実施による効果の表れにより、連続実施を希望する学校も増えている。

満足度(助成対象事業)		参加者の声
公演事業	83.8%	(まちで魅了する舞台)すばらしい演奏とおいしいおつまみとワイン、幸せな時間でした。来て良かったです。 (河内音頭)地域の文化を子ども自身学べてよかったです。来年もあればぜひ参加したいです。(保護者) (課外授業)ヴァイオリンの音をちかくできて、すごく心にひびく音だと思いました。 ヴァイオリンをひいてみて、とても楽しく、習いたいと思いました。
人材育成事業	87.5%	
普及啓発事業	81.3%	
全体	82.6%	

【4. 文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信】

詳細な情報を提供することができるホームページについては、常に新しい情報を提供するため、1週間に1度程度は更新するように努め、SNS での発信もそれに合わせてコンスタントに行った。また、施設予約やチケット購入など、高齢者等にもわかりやすい画面となるように、軽微な改修等を随時実施した。

自主事業情報だけでなく、利用者のイベント情報、まちの吹奏楽情報など地域の文化活動や市民活動の発信、連携企業のリンクを張り相互発信するなど、地域および地域文化の発展につながった。

また、事業団の取り組み状況やミッション、目指すものを示すページやバナー、ポスター等も作成し、それらの情報発信が功を奏し、「あなたの人生がかがやく場所プリズムホール」が定着し、市民のロイヤリティが高まった。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

【1. 総括】達成した。

【2. 設置者など外部評価】

設置者である八尾市の評価は、モニタリング結果から知ることができる。平成 30 年度は S 評価で連続での最高評価となった(平成 31 年度(令和元年度)はまだ出ていない)。平成 31 年度の利用者アンケートより「施設を利用・来館した総合的な感想」として施設利用者で 90.8%、鑑賞者で 81.7%の方が満足されており、ステークホルダーの期待や地域のニーズに答えている結果となった。その他大阪府からは「大阪府芸術文化振興補助金」(平成 25 年度～現在)、「輝け！子どもパフォーマー事業」(平成 25 年度～現在)といった助成金の採択を受けており、これらは外部評価として一定の成果であるといえる。

【3. ステークホルダーとの関係】

地域の拠点施設として、市民や地域団体とは多くの取り組みを行った。事業によって技術支援や定期的な会議等を実施し、事後には反省会やアンケートにより意向を確認した。コミュニケーションは良好で、その結果、「観光や市民活動支援」、「市民の文化活動の発展」につながった。なお、主なステークホルダーとの連携とまとめは下記のとおりとなる。

主なステークホルダーとの連携まとめ

ステークホルダーの種類	八尾市 (文化国際課)	プリズム運営 ネットワーク会議	プリズム 市民サポーター	各フェスティバル 実行委員会	地域伝統 文化団体	市民地域 文化団体
目的	指定管理及び 市内・地域の 芸術文化振興 のため	市内・地域における 各団体および プリズムホールの 運営の向上を図る	市民ボランティア によるプリズム ホールへの支援・ 応援	地域の活性化、 各フェスの技術 の向上	地域伝統文化 の普及・振興	地域の市民文化 活動の振興
コミュニケーション の方法	会議他	会議他	会議(連絡会) 意見交換会 (公演事業鑑賞後に 感想・意見を聞く会)	会議、 アンケート他	事業を通じた 打合せ	事業を通じた 打合せ
頻度	定例:4回/年 臨時:5~6回/年	定例: 1~2回程度/年 他随時	会議: 6回/年(2ヶ月に1回) 意見交換会: 鑑賞型事業毎	4回/年	事業実施時に 数回	事業実施時に 数回

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

【1. 総括】達成した。下記の取り組みの結果、事業を通じて組織活動が持続的に発展しうると認める。

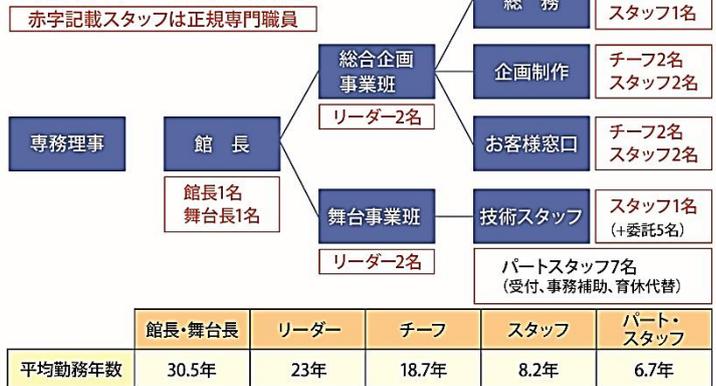
【2. 人材面】

当館指定管理者である八尾市文化振興事業団の人財育成は、人こそ成長する「財」ととらえ、採用後は、八尾地域及びプリズムホールで働きたいという組織ロイヤリティを高め、ミッションを実現する人材として、長期的に大切に育てるという方針のもとに行っている。人財を短期間の使い捨てや、昇進・昇格もない不遇な身分には置かない。基幹業務を担うスタッフは、企画制作・貸館・舞台技術・総務を問わず全員財団正規職員である。また業務をサポートするパート職員も含め、定着率が高く勤続年数が長い。特に出産後の女性職員の定着率は100%である。

これらは、人財育成基本方針・人財育成型人事評定制度、フィードバック面接、内部・外部研修（専門・全般）の実施など、当年度も含めこれまで10年以上継続して行ってきた結果といえる。

上記仕組みのPDCAは、事業団幹部会議での人事制度構築時、当館幹部会議でのフィードバックの中で継続的に実施している。これら取り組みで劇場人財が育成されており、人材面での持続的発展が認められる。

●組織図(R2年4月1日現在)



【3. 財務面】

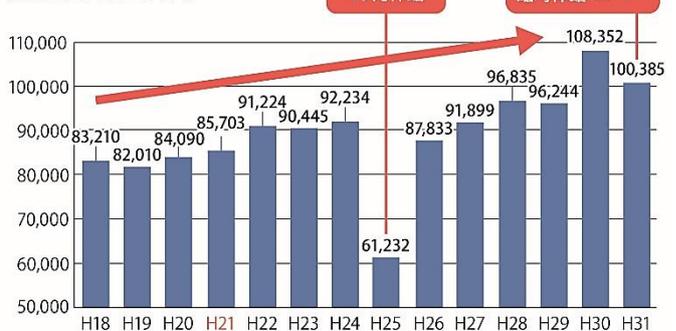
当館は、平成18年度以降、指定管理者制度（利用料金制）による運営である。収益の大きな柱は指定管理料と利用料金であり、その推移は良好である。芸術文化事業においては市からの芸術文化振興への指定管理料と事業収入、補助金・助成金であり、その推移は良好である。

当年度は新型コロナウイルスの影響による利用料収益の減があったが、最終的には赤字を免れる決算見通しとなった。課題としては、利用料金収入の維持、補助金・助成金以外の資金調達策の確立である。

上記仕組みのPDCAは運営に関しては、当館幹部会議時の月次の収支管理、半期決算と年末決算見通しをたてて、改善に役立てた。芸術文化関係では、2回/月の企画制作会議のなかで入場料収入の管理を行い、予測との比較確認を行った。これら取り組みにより、当年度含め継続的に財政的に安定しており、持続的発展が認められる。

実績(就任後の収益の伸び)

施設利用料収益(千円)



【4. 各方面とのネットワーク】

劇場・音楽堂等間のネットワークとして、全国公文文化施設協会、近畿支部会、さらにその下部の大阪府文化施設連絡協議会と地区別の東部地区会議の4会に加盟・参加し、研修への参加、情報共有や共通の課題解決を行った。

事業における劇場・音楽堂等間のネットワークとしては、これまで事業における連携のためのネットワークを事業単位で構築してきた。これは事業実施のない年でも、情報共有や共通の課題解決に役立てた。

教育機関とのネットワークは、近畿圏の4つの大学と交流・連携を果たした。内容は、2校とはインターシップ、1校とは事業協定、もう1校とは八尾市を通じた連携協定を締結し、それぞれに事業を実施した。

館長及び職員が、全国公文協から他施設への支援員依頼や、上記大学のゲスト講師としての派遣依頼を受けて講義も実施、審査会の専門調査員や、地域団体への講話も実施した。

【5. 施設面】

施設面では、組織活動の持続的な発展のために、建物・設備の定期的な維持管理を行った。財団職員に舞台技術職がいるため、長期修繕計画を策定し、日常的な管理を行い、不具合がある場合は市への報告・修繕依頼・修繕立会・事後確認・市への報告を行うことができた。これ自体が日常的なPDCAサイクルとなっている。個々で集積された課題やデータ、市民からの意見を集積し、令和3年度実施予定の大規模的改修につなげることができた。これら取り組みにより、施設面での適切な維持管理のもと、組織の持続的発展が認められる。